

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	児童通所支援事業所 あいらいく		
○保護者評価実施期間	2025年11月1日		～ 2025年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2025年12月19日		～ 2026年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境体制整備及び適切な支援の提供の中で、職員配置を適切に行い、こどものことを十分に理解し、こどもの特性に応じた専門性のある支援を行うことができる。 看護職員及び専門職（療士）の配置	<ul style="list-style-type: none"> こどもの状態を日報の振り返りや保護者からの情報をもとに職員間での情報共有を行っている。 学校の先制や保護者と送迎時に児童の状態の確認を行うことができている。（医療的ケア、最終排尿の情報等） 病院等のリハビリ計画書を保護者から受け取り、事業所での支援に取り入れるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門的支援計画書を作成し、計画に沿った専門的支援を行っている。 児童の状態に対して、病院からの情報提供を受けるために連携を図っていく。（保護者を通して、さらに詳しい情報を確認することができるようにしていく） 医療的ケア児や配慮が必要な児童の対応に際して、どのようなリスクがあるのか全職員で共有し、対応ができるようにしていく。（リスク管理、報連相、情報共有等の声かけの徹底）
2	適切な支援の提供の中で、こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズ等を盛り込んだ個別支援計画の作成を行い、計画に沿った支援を行っている。また、活動や遊びの内容をそれぞれの状態やレベルに応じて対応することができている。	<ul style="list-style-type: none"> 5領域をローテーション化し、重ならないようにテーマを考えている。また、活動の内容に関しては、職員同士で話し合いを行い決めている。 プログラムの立案の時には、曜日や児童の状態に合わせて難易度の調整を行っている。1度実施した内容の活動でもルールの変更などを行い、満遍なく取り組むことができるようにしている。 職員同士で5領域を活かしたプログラムの話し合いを行うことができ、自分が担当でない場合でも積極的に声かけを行い協力して取り組むことができている。また、こども達の反応を踏まえて、次の活動に反映させるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りなどの話し合いは午前中に行っているが、パート勤務などで参加できない職員に対して、内容が決まってから情報共有している状態の為、検討段階での情報共有を行い、よりよい支援ができるようにしていく。 活動等で意見を伝えてくれる児童もいるため、児童の意見を主体的に取り入れていくことでもっと楽しく取り組むことができるようにしていく。
3	適切な支援の提供の中で、日々の支援に対して記録をとることを徹底し、支援の検証、改善につなげることができるようにしており、保護者にも丁寧に伝えることができるように取り組んでいる。また、保護者のニーズに合わせた対応として、児童の受け入れ（時間や曜日等）や送迎の有無及び時間などを柔軟に対応することができている。	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時等、その日にあった出来事は保護者に直接伝えるようにしている。児童の反応に対する対応策などを伝えるようにしている。 普段から保護者とのコミュニケーションを密に行うことで、柔軟に対応することができるようにしている。 何かしらの要望（困りごと等）があった時に、職員全体で話し合いを行い、改善策を実践することができるように意見のすり合わせを行っている。 個別支援計画の振り返りを利用日毎（記録システム内）で行い、現在の状態をご家族に分かりやすく記録するようにしている。 利用児童の年齢が上がるにつれて、下校時間が遅くなる事が多く、活動への参加時間が短くなってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時の伝達、HUG（個別の記録）を読んだ後の反応等を通してやり取りを深めているが、あまり話をされなかったり、記録をあまり見られていない保護者との情報共有や保護者以外の家族（祖父母等）等の過程状況に合わせた情報共有の手段の模索が必要。 ご家族から事業所への連絡帳に記載してもらうことで、さまざまな内容の共有がしやすくなってきている。 日々の記録の中で以前よりも活動中の写真を載せることができるようになってきている為、ご家族と一緒に観てもらうように促しを行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内での活動が主となってしまっており、地域との関わりが少ない。また、事業所がある建物内の他店舗との協力関係を結ぶ必要がある。 避難訓練等の近隣住民との協力等	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア児がいることもあり、外出等の設定が難しく先延ばしになってしまっていた。（導尿等の時間が決まっているケアが必要なため） 避難訓練等については、児童を含めて近隣住民の協力をもち訓練をどのように実施していけばいいのか計画を練ることができていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練については、リスクを考えつつ、児童を含めて訓練の段階をスモールステップで実施し、最終的には全体を通して取り組むことができるようにしていく。 地域の施設等の見学や福祉運動会等のイベントへの参加に取り組んでいく。 外出（公園等での活動）等の活動で他の児童との関わりが発生する場合には、状況をしっかりと把握したうえで、こども同士の関わりを持つことができるように取り組む。
2	今まで、中学生から高校生、高校生から社会人への移行がなかったこともあり、下校時間が遅くなった場合の支援時間の確保及び支援内容をどのようにしていくべきか。 また、事業所終了の設定や区切の付け方をどのようにしていくべきか。	<ul style="list-style-type: none"> 今まで利用していた児童の終了の目安については、保護者の要望等での終了が主であった。児童によって、終了の目安が違うことで把握することができていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生及び高校生の受け入れについては、児童の状態に応じて、支援時間の確保及び支援内容の検討が必要。 事業所利用の終了の目安については、自宅での留守番ができる状態と考え、そのために必要なスキルを検討し、身に付けることができる支援に取り組んでいく。
3	保護者への説明等の中にある、ペアレント・トレーニングや家族等が参加できる研修会の機会等、保護者会等の交流が図られるイベントの実施を定期的に開催していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時等で各ご家庭へのアドバイス等を行うようにしているが、根本的な部分へのアプローチができていないのではないか。 事業所の都合によって保護者会等の開催が不定期になってしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各ご家庭によって困りや知りたいことが違うこともあるが、児童の特性等の根本的な内容や支援方法を定期的に研修会等を開催していく。 年1回以上の保護者会（家族会）を計画し、ご家族同士で相談し合うことができる環境を整えていく。